



### 辻本 玲 Rei Tsujimoto 【チェロ】

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業。その後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。第72回日本音楽コンクール第2位。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞（日本人最高位）。2011年に東京サントリーホール他5大都市でデビュー・リサイタルを開催。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース（「レコード芸術」誌特選盤）。サイトウ・キネン・オーケストラに毎年参加するほか、アルカス佐世保レジデンス・カルテットなど室内楽でも活動。NHK交響楽団首席チェロ奏者を務める。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は匿名のコレクターよりTourteを特別に貸与されている。Music Dialogue アーティスト。公式サイト

<http://www.rei-tsujimoto.com>



## Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2021-2022 Vol.4

めぐろパーシモンホール 小ホール  
2022年3月4日（金）開演 19:00

クララ・シューマン      ピアノ三重奏曲 作品17  
Clara Schumann      Piano Trio in G minor, Op. 17  
I. Allegro moderato  
II. Scherzo. Tempo di menuetto — Trio  
III. Andante  
IV. Allegretto

酒井有彩 (Pf.) 小栗まち絵 (Vn.) 辻本玲 (Vc.)

ヨハネス・ブラームス      ピアノ四重奏曲第3番 ハ短調 作品60  
Johannes Brahms      Piano Quartet No. 3 in C minor, Op. 60  
I. Allegro non troppo  
II. Scherzo. Allegro  
III. Andante  
IV. Finale. Allegro comodo

酒井有彩 (Pf.) 小栗まち絵 (Vn.) 大山平一郎 (Va.) 辻本玲 (Vc.)

### ◇今後の公演のお知らせ◇

#### ■Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2022-23 Vol.1

- ・本公演： 2022年7月1日(金) 19:00 開演
- 【会場】 めぐろパーシモンホール 小ホール（都立大学駅より徒歩7分）
- ・字幕解説付き公開リハーサル： 2022年6月27日（月）19:00 開始
- 【会場】 中目黒GTプラザホール（中目黒駅南口よりすぐ）
- 【曲目】 クロード・ドビュッシー／弦楽四重奏曲 ト短調 作品10  
フェリックス・メンデルスゾーン／弦楽五重奏曲 第2番 変ロ長調 作品87
- 【出演】 福田麻子（ヴァイオリン）、前田妃奈（ヴァイオリン）、中村詩子（ヴィオラ）  
大山平一郎（ヴィオラ）、水野優也（チェロ）
- 【申込】 4月上旬に発売開始予定

#### ■Music Dialogue Duo Project 2022

- ・本公演： 2022年9月4日(日)
- 【会場】 Hakuju Hall
- 【出演】 對馬佳祐（ヴァイオリン）、金ジャンミシェル（ピアノ）  
竹澤恭子（ヴァイオリン）、上田晴子（ピアノ）

出演者や演目は変更になる可能性がありますこと、ご了承ください  
最新情報はホームページよりご確認ください

[music-dialogue.org](http://music-dialogue.org)

#### ◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法か

右のQRコードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「460572」を入力



[主催] 一般社団法人 Music Dialogue

[共催] 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団

[協力] 日本音楽財団（日本財団助成事業）

## 作品解説

### ◆クララ・シューマン(1819-1896)：ピアノ三重奏曲 ト短調 作品 17 (1846)

ピアノの名教師フリードリヒ・ヴィーク（1785-1873）の娘として英才教育を受けたクララは、18歳という異例の若さで（かつ女性、プロテスタントでありながら）当時のオーストリア皇帝フランツ1世から「王室兼皇室室内楽ヴィルトゥオーゾ」という称号を得ている。その翌年（1839年）、クララは父の弟子であるロベルト・シューマンとの結婚を決意するが、父ヴィークは反対。最終的に裁判で法的に認められ、クララは21歳となる前日にロベルトと結婚式を挙げた。ロベルトが1856年に亡くなるまでの16年間に8人の子を身ごもり（長男だけが1歳で早逝）、周囲の協力を得てはいたものの女手一つで子どもたちを育てながら、亡くなるまで音楽活動を続けている。ふたりの結婚からおよそ6年後（そしてブラームスと出会う7年前）に三重奏曲は作曲された。全4楽章で構成されており、夫ロベルトからの強い影響を感じさせると同時に、ロベルトよりも論理性を重視した冷静な側面はブラームスを思わせる。実に興味深い作品である。

### ◆ヨハネス・ブラームス(1833-1897)：ピアノ四重奏曲第3番 ハ短調 作品 60 (1855-74)

かつて本作は“ウェルテル四重奏曲”と呼ばれていたことがあった——もちろん由来は文豪ゲーテによる永遠の青春小説『若きウェルテルの悩み』。婚約者のいる女性に恋をした青年ウェルテルが追い込まれていき、最終的にピストル自殺をしてしまうという物語だ。ブラームスは、この四重奏について「ピストルを向けた頭を楽譜の表紙にしてくれ。そうすればこの曲の楽想を思い浮かべられるはずだからね。そのために私の写真を送ろう！」と出版社に書き送っている。つまり楽曲冒頭のピアノは銃弾の音を模したもので、しかも第1楽章を作曲していたのは、ブラームスは人妻クララに想いを寄せており、その夫でありブラームスの恩師でもあるロベルト・シューマン（1810-1856）が自殺未遂を図って療養所に収容されていた頃だったのだ。だが本作はウェルテルのような絶望的な心情で始まりこそしても、全4楽章をかけて次第にその辛い状況を乗り越えていくように音楽が進んでゆく。

(小室敬幸)

## 演奏者プロフィール



### 酒井有彩 Arisa Sakai [ピアノ]

文化庁新進芸術家在外研修員。ベルリン芸術大学を最優秀で卒業。国家演奏家資格取得。ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会、全日本学生音楽コンクールをはじめ、マルサラ市国際第2位、ジュネーブ国際セミファイナリスト、ブゾーニ国際ファイナルスカラシップ、レオポルド・ベラン国際第1位など多数受賞。ポーランド国立放送響、リベイルンプレート響、東響、群馬響、大阪響、関西フィル、日本センチュリー響、兵庫 PAC 管、モディリアーニ弦楽四重奏団などと共演。デビューCD「ラヴェル ピアノ協奏曲 ト長調」はレコード芸術誌の特選盤に選出された。[www.arisasakai.com](http://www.arisasakai.com)



### 小栗 まち絵 Machie Oguri [ヴァイオリン]

大阪生まれ。桐朋学園大学卒業。インディアナ大学アーティストディプロマ課程修了。江藤俊哉、斎藤秀雄、J・ギンゴールド氏らに師事。1968年日本音楽コンクール第1位、76年エヴィアン国際室内楽コンクール第1位。1974-86年インターナショナル弦楽四重奏団のメンバーとして欧米で活動。86年帰国。多彩な演奏活動及び教育者としての功績に対して2004年度エクソソモービル音楽賞、07年度大阪芸術賞特別賞等、受賞。現在、いずみシンフォニエッタ大阪コンサートマスター、水戸室内管弦楽団メンバー、相愛大学大学院教授、東京音楽大学特任教授。



### 大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞(芸術祭優秀賞)を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project (米国サンタ・バーバラ) 音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。